子どもキャンププロジェクト

テーマ **第1回　子どもキャンププロジェクト①**
講師　青少年センター職員
第2回　子どもキャンププロジェクト②
講師　青少年センター職員
第3回　子どもキャンププロジェクト③
講師　青少年センター職員
第4回　子どもキャンププロジェクト④
講師　青少年センター職員
第5回　子どもキャンププロジェクト⑤
講師　青少年センター職員
第6回　子どもキャンププロジェクト⑥
講師　青少年センター職員

目　的　子どもとのレクリエーション活動を企画・運営するグループを組織し、その運営やイベントの企画運営を通して、人間関係作りや子どもとの関わり方等を学び、地域活動等で活躍するリーダーやボランティア等の育成を図るため。

企画の経緯　将来子どもと関わる仕事に就きたいと考えている大学生年代の若者にとって、子どもたちのキャンプを企画・運営をすることは将来指導者になるにあたって重要な経験となるため本研修を企画した。

日　時　第1回 11/2（土）10:00～16:30
第2回 12/22（日）10:00～16:30
第3回 1/11（土）10:00～16:30
第4回 2/16（日）10:00～16:30
第5回 2/28（金）10:00～3/2（日）17:00
第6回 3/9（日）10:00～16:30

会　場　第1回 神奈川県立青少年センター
第2回 神奈川県立青少年センター
第3回 厚木市七沢自然ふれあいセンター
第4回 神奈川県立青少年センター
第5回 厚木市七沢自然ふれあいセンター
第6回 神奈川県立青少年センター

参加対象　子どもと関わっている又は関わろうとしている大学生年代の若者

参加人数　第1回 5人　第4回 8人
第2回 7人　第5回 9人
第3回 8人　第6回 6人

広報手段　指導者育成課の事業の参加者への周知、県内市町村青少年主管課への周知及び各大学への周知による

共催等　なし

プログラム

【第1回】
・アイスブレイキング
・グループワーク
【第2回】
・アイスブレイキング
・企画ミーティング
【第3回】
・厚木市七沢自然ふれあいセンター施設見学
・企画ミーティング
【第4回】
・企画ミーティング
・リハーサル
【第5回】
・子どもキャンプ前日準備
・子どもキャンプ本番
【第6回】
・振り返り
・動画作成

活動の様子

目的・スローガンの決定！（第1回）

皆で解決！イニシアチブゲーム（第2回）

厚木市七沢自然ふれあいセンター下見（第3回）

キャンプ前に一致団結！（第5回）

野外炊事の説明（第5回）

振り返りは次回以降に活かすために（第6回）

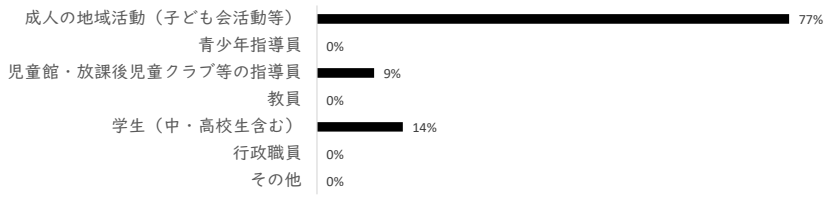
参加者の評価

事業後の満足度

事業への期待度の事前	満足度が高い	満足度が低い
期待度が高い	9人	0人
期待度が低い	0人	0人

（左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。）

参加者の所属割合



（アンケートより作成）

参加者の声（抜粋）

はじめてのキャンプ企画・運営体験でしたが周りの人に支えられながら自分なりに挑戦をして新たなことに取り組むことができた。この経験を生かしていきたい。

自分では気づかない部分や、プログラムの裏の部分まで計画することができて勉強になった。今活動している団体で活用できるよう工夫しながら実践をしていきたい。

参加者の仲間とプログラムの変更点や改善しなければいけない所を皆で出し合い考えながら共有できてよかったです。皆で共有して進める大切さを学びました。

評価　今年度は、キャンプに慣れた参加者が多く例年以上に参加者に判断を委ねてキャンプを企画・運営することができたのではないかと思う。参加者の工夫が小学生に伝わり、子どもと関わる楽しさや面白さを体験できたのではないか。

課題　広報手段の見直しが改善点として挙げられる。大学生年代の集客は難しいので、大学と連携する等行っていきたい。

コミュニケーションスキルアップセミナー

講師　(株)インプロジャパン　峰松　佳代 氏

目　的　インプロビゼーション（即興劇）のアクティビティ体験を通じ、学校及び団体で活動する指導者・支援者のコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、多様性への理解を深めることで、共生社会の実現に向けた取組みの推進を担う支援者・指導者の資質の向上に役立てるため。

企画の経緯　ともに生きる社会の根底には、個々の良好なコミュニケーションが欠かせない。アイスブレイキングやチームビルディングに活用できるインプロ・ゲームのワークショップという構成で、子どもと関わる若い世代がコミュニケーションについて改めて考え、成長を実感できるよう本研修を企画した。

日　時　8/20(火)10:00～16:30

会　場　神奈川県立青少年センター

参加対象　中学生から大学生年代を中心とした若手の青少年支援・指導者
（青少年指導員、子ども会育成者、ジュニア･リーダー、ユース・リーダー、教員、子ども施設指導員、居場所施設職員、引きこもり支援団体職員、青少年関係団体職員等）

参加人数　11人

広報手段　チラシをメールで送付し、関係機関に周知することや、いのち・未来戦略本部室コミュニティ活性化グループに依頼し、県内66大学に周知することによる。

共 催 等　なし

プログラム

・オリエンテーション
・インプロ・ゲームワークショップ

活動の様子

コミュニケーションの魅力をレクチャー

アイコンタクトと握手で縮まる距離

YESand を合言葉に想像を膨らませる

相手を思いながら表現を重ねていく

いつのまにかチームが育っていました！

涙あり、笑いありのふりかえり

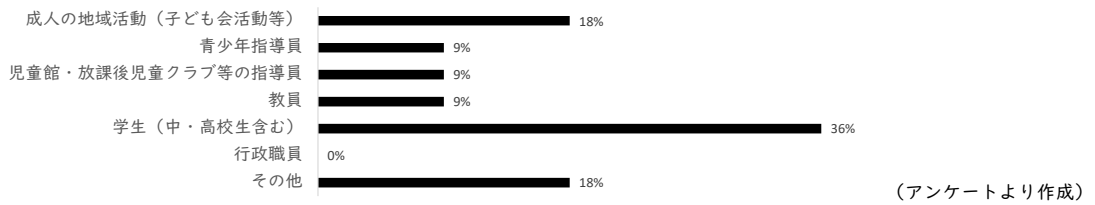
参加者の評価

事業後の満足度

事業への事前の期待度	満足度が高い	満足度が低い
期待度が高い	11人	0人
期待度が低い	0人	0人

（左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。）

参加者の所属割合



（アンケートより作成）

参加者の声（抜粋）

最初は初対面の人の前で即興をすることに抵抗があったが、温かい目で許してくれて、自分の思いついたことを表現していい空間がとても居心地が良かった。私も将来教育の仕事に携わりたいので、その際は子どもが教室で居心地のいい空間を作れるように今日の体験を活かしていきたい。
今回のワークショップに参加してみて、普段関わることがない参加者の方々と関わって自分にはない考えや発見があり、非常に勉強になりました。教育現場だけでなく、日常生活にも活かせるような内容で参加させていただけてよかったです。また機会があれば参加したいと思いました。
本日はありがとうございました。インプロのような体験はなかなか日常でできることはなく、貴重なものになりました。今回学んだ内容を、特にYESandなど日常に生かしていきたいと思います。

評価

研修指導の経験が豊富な講師に、参加者の様子に合わせ、調整しつつ対応いただいた。ふりかえりでの参加者の発言からも、それぞれが学びを深めている様子が見られた。研修の事前の期待度、事後の満足度もともに100パーセントで、効果的な内容であることを示した。

課題

「コミュニケーションスキル」を前面に出さないように今年度はエ夫したが、次年度もアイスブレイキング系の事業と同様にアクティビティ体験として打ち出す方向で継続するとよいと感じる。体験学習プログラムセミナーの枠の中に設定すれば広報の相乗効果も生まれるのではないか。

地域応援事業Ⅰ

平塚市ジュニア・リーダーズクラブ活動支援プログラム

テーマ
第1回　平塚市ジュニア・リーダーズクラブ総会　継続生用研修
講師　青少年センター職員
第2回　平塚市ジュニア・リーダーズクラブ研修会　KYT＋ゲーム講習
講師　（公財）よこはまユース職員
平塚市子ども会　元育成者
第3回　平塚市ジュニア・リーダーズクラブ研修会　デイキャンプ
第4回　平塚市ジュニア・リーダーズクラブ研修会　バルーンアート講習

目的
市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。

企画の経緯
平塚市ジュニア・リーダーズクラブ（以下JLC）が主催する夏のキャンプに向けた準備として、平塚市青少年課の要望により研修を企画した。
コロナ禍により、技術を学び合う機会が減少したことから、JLC活動に関わる基本的な技術習得を図ることを目的とした。

日時
第1回 4/27(土)9:00～16:30
第2回 5/18(土)9:00～16:30
第3回 6/15(土)9:00～16:30
第4回 11/16(土)9:00～16:30

会場
第1回 平塚市青少年会館
第2回 平塚市青少年会館
第3回 平塚市びわ青少年の家
第4回 平塚市青少年会館

参加対象
平塚市ジュニア・リーダーズクラブ

参加人数
第1回 27人　　第3回 24人
第2回 21人　　第4回 10人

広報手段
主催団体の募集による

共催等
【主催】平塚市
【共催】県立青少年センター

プログラム

【第1回】
・総会
・継続生用研修

【第2回】
・ゲーム講習
・KYT講習

【第3回】
・入所式、オリエンテーション
・班別対抗ゲーム
・野外炊事
・レクゲーム
・写真撮影、退所式

【第4回】
・バルーンアート講習
・ゲーム講習

活動の様子

キャンプに向け熱意を語り合う(第1回)

役員たちで集合写真！(第1回)

市職員と協力し合って進行しました

みんなでカレーナンづくり（第3回）

仲を深めるアクティビティ（第3回）

いろんな種類にチャレンジ！(第4回)

参加者の声（抜粋）

他地域の運営の方法や取組みについて知る機会になり学びになった。地域に密着したJLCの活動を、より充実させていきたい。(職員)

野外炊事のメニューなど、毎年こうだから…となっていることを考え直すのも大切だと感じた。次年度に繋げていく。(職員)

共催という形にし、事業の組立てなど長期的に相談ができたことがよかった。引き続き協力し合いたい。(職員)

評価

元々は平塚市のJLCキャンプの成功を目指すものだったが、クラブ全体の活性化にまで目を向けられたことがよかった。年間の計画をデザインし、適宜青少年課の職員とも学び合う機会を設けた今回の事例は、地域応援事業のひとつのモデルとして価値ある経験となった。

課題

主に市職員の支援を通じてJLC活動を支援する建て付け上、ジュニア・リーダーとどのように関わるか探りながらの進行となった。講評、あるいはふりかえりの進行など、第3者としての強みを生かせる場面設定も考えていきたい。

地域応援事業Ⅱ

令和6年度大磯町子ども育成者研修会

講師　青少年センター職員

目　的	市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。
企画の経緯	大磯町生涯学習課の依頼により、青少年指導員及び自治会役員を対象とする研修を企画した。また、地域住民が青少年を支援する意義及び事例を示し、地域における青少年支援の機運の醸成を図ることを目標とした。
日　時	6/22(土)10:00～12:00
会　場	大磯町保健センター
参加対象	子ども会役員等、自治会（地域）における子ども育成者及び青少年指導員等
参加人数	8人
広報手段	主催団体の募集による
共催等	【主催】大磯町 【共催】県立青少年センター

プログラム

・アイスブレイキング体験
・ワークショップ
　「みんなで創る地域の活動」

活動の様子

オリエンテーションから前向きに！

アイスブレイキングでほぐれる空気

椅子を活用、膝詰めで心の距離も近づく

信頼関係を育むアクティビティも

ワークショップも大盛況！

学びをまちの青少年たちへ

参加者の声（抜粋）	気持ちをほぐす、交流するというアイスブレイキングを体験してみて、人との距離がどんどん縮まっていくということを実感できました。とても勉強になり、実際に何か集まりを自身が主催した際には使ってみたいと思いました。町内の子ども育成に関わる方と交流できた事もとても良い機会でした。
	様々な立場の方が地域のつながりについて考えていることを知り、とても良い気分になった。
	同じこころざしを持っている方たちと意見交換できたこと。自身のモチベーションもあがった。

評　価	子ども会役員、青少年指導員、学童スタッフ等、町内で子どもと関わる活動をされている方々を対象とした研修で、全員がとても熱心だった。日常ではそれぞれ違う組織での活動で、今回の研修を通して横のつながりを築くこともできたようだ。「大磯の子ども達のために」という共通点から、「自分たちの活動に活かせることを取り入れたい」との意識が感じられ、今後もこのような研修を積み重ねることで、大磯の青少年活動がより充実していくと頼もしく感じられた。
課　題	小規模自治体では青少年育成事業に係る職員数が少数に止まる傾向がある。町村部を中心に、県として重点的に共催事業に取り組むことで、青少年育成事業の振興を図りたい。

地域応援事業Ⅲ

藤沢市青少年指導員協議会　全体研修会

講師　青少年センター職員

目　的	市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。
企画の経緯	藤沢市青少年課の依頼により、青少年指導員対象の研修において、アイスブレイキングのプログラムを企画した。青少年にとって望ましい地域づくりを推進すること、及び地域における青少年支援の機運の醸成を図ることを目標とした。
日　時	11/21(木)9:00～12:00
会　場	藤沢市秩父宮記念体育館
参加対象	藤沢市青少年指導員等
参加人数	95人
広報手段	主催団体の募集による
共催等	【主催】藤沢市・藤沢市青少年指導員協議会 【共催】県立青少年センター

プログラム

・ハンドゲーム
　（銃と的・グーチョキパーアンケート）
・出会いのゲーム
　（後出しじゃんけん、数拍手）
・他人と関わるアクティビティ
　（せーの、７－１１じゃんけん、
　ラインナップ）
・みんなを知るアクティビティ
　（ハブユーエバー）
・プロジェクトアドベンチャー
　（あやとり）
・講話
　（アドベンチャー教育について）
・レクリエーション
　（パン食い競走）

活動の様子

７－１１じゃんけん

ラインナップ

あやとり①

あやとり②

グループでふり返り

パン食い競走

参加者の声（抜粋）	
	子どもが楽しめそうなアクティビティをたくさん教えていただけた。子どもたちが夢中になって遊んでいる時に、静かに気づかせる方法も教えていただいたので、実践してみたい。
	90名をこえる青少年指導員の方々が、子どもたちとの関わり方について学ぼうとする意欲が素晴らしいなと感じた。その意欲に最大限応えられるよう研修を行ったが、雰囲気良く学びのある研修にできたのではないかと思う。（職員）
	指導員の皆さんがとても前向きに参加されていて、講師としても楽しく取り組めた。アドベンチャー教育の意義を踏まえた上で、本時の研修内容を各地域の子ども会で活用していただけることを期待したい。（職員）

評価	コロナ禍でも実践した事業であり、今回は2部制ではなく、100人弱の参加者を一度に行う方式にした。指示が通るか懸念があったが、会場が広かったことと、前向きな姿勢で取り組む参加者が多かったこともあり、とても好評だった。最後にレクリエーションを毎年入れていることも、参加者にとっては楽しみのひとつになっていた。
課題	本研修は概ね好評であったが、参加者が多いため、全てのニーズに応えることが難しいと実感した。今回の内容に対する評価と次回に向けた要望について、参加者の声を拾い上げていくことが必要ではないか。主催の藤沢市と連携し、より充実した事業にしていきたい。

地域応援事業Ⅳ

Sakae Wakamono Creation 2024　ワークショップ

講師　青少年センター職員

目　的	市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。
企画の経緯	ティーンズクリエイション組織委員会を構成する横浜市栄区の青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」（運営団体：社会福祉法人地域サポート虹）の依頼により、青少年に第３の居場所を提供する文化事業「Sakae Wakamono Creation2024」の支援を企画した。職員を派遣し、チームビルディング体験の機会の提供や、事業企画の立案・進行への長期的な助言を中心に、共生社会の実現に向けた取組みの推進を担う支援者・指導者の資質の向上に役立てることを目的とした。
日　時	10/12(土)10:00～12:00
会　場	横浜市栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」
参加対象	Sakae Wakamono Creation2024のうち、創作舞台の指導者、企画者及び参加者
参加人数	17人
広報手段	共催団体の募集による
共催等	【主催】ティーンズクリエイション組織委員会 【共催】県立青少年センター

プログラム

・アイスブレイキング
・コミュニケーションゲーム
・PA系ゲーム

参加者の声（抜粋）	有意義なワークをたくさんやっていただき、本当にありがとうございました。 今日のワークショップで学んだこと、感じたこと等は、これから大いに活かしていくことと思います。いろいろな手法を用いていただき、参加者がそれぞれ何かを受け取らせていただいたようです。
	「超・大人気とんこつラーメン屋」のアクティビティがとても盛り上がり、違うものをやりたいという要望も多かったです。 Webページ掲載の資料を何かの機会に活用させていただきます。
	コミュニケーションは練習できるということが新鮮だった。これからの演劇の創作に向けて、自分を見つめ直す機会になった。

評　価	地域には様々な青少年が関わる団体があるが、その中に入っていって支援を行う新たな試みとなった。青少年センターのポテンシャルを活用すべく、昨年まで主に市町村を対象とした枠組みをNPO等への転用も可能としたことが今回の好事例に繋がった。今後も連携先を検討したい。
課　題	チームビルディングについては指導者育成課、舞台芸術の領域については文化課の力を借りることにより、複層的な支援が可能になる。青少年センターとしてのポテンシャルを発揮する事例としてブラッシュアップに取り組みたい。

地域応援事業Ⅴ

座間市放課後子ども教室スタッフ研修会

講師　青少年センター職員

目　的　市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。

企画の経緯　座間市こども育成課の依頼により、放課後子ども教室スタッフを対象とする研修を企画した。小学生との関わり方に係る講義及び大人とのコミュニケーション体験を実施し、地域における青少年支援・指導者の指導力の向上を目標とした。

日　時　11/25(月)10:00～12:00

会　場　座間市立青少年センター

参加対象　放課後子ども教室スタッフ

参加人数　21人

広報手段　主催団体の募集による

共催等　【主催】座間市
【共催】県立青少年センター

プログラム

・講義、グループワーク
「安心を育むコミュニケーション」

活動の様子

現場で起こりがちないくつかの例を元に、ロールプレイングゲームでスタッフとしての力を磨く

参加者の声（抜粋）

ガールスカウトで育成者を務めているが、そのプログラムがWHOの提唱する「ライフスキル」を元にしていることに気づき驚いた。これまでの考え方に自信を持って子ども施設でも取り組んでいきたい。
施設のイベントを盛り上げるため、どのように他の団体と関わっていけばいいか考えていました。大変参考になりました。
グループワークは実際にあるシチュエーションばかりでとても盛り上がり、勉強になりました。職場でもロールプレイングをやってみたいと思います。ありがとうございました。

評　価　講義の最中に設けたインプロを活用したグループワークやロールプレイングゲームが特に効果的で、質疑応答も活発であり、地域応援事業の新たなニーズを掘り起こす事業となったと言える。今回の内容や進め方については市職員の評価も高い。

課　題　子ども施設スタッフに対し、行政として効果的な研修体系を用意し、スタッフのキャリアマネジメントを図ることが今後の課題。このニーズに対し、今回のテーマの横展開と同時に、子ども施設指導員セミナーでの実績を生かし、資料の一層の充実を図る。

地域応援事業Ⅵ

令和６年度指導者養成研修会「レクリエーション研修会」～楽しみながら実践力UP！レクリエーション指導のコツ～

講師　青少年センター職員

目　的	市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。
企画の経緯	（一社）神奈川県子ども会連合会の依頼により、ジュニア・リーダー、ユース・リーダー、指導者、育成者対象の研修において、レクリエーションのプログラムを企画した。青少年支援に実践的に役立つノウハウの提供を通じ、地域を担う支援者・指導者の資質の向上に役立てることを目標とした。
日　時	12/1(日)13:00～16:00
会　場	大和市保健福祉センター
参加対象	神奈川県子ども会連合会所属のジュニア・リーダー、ユース・リーダー、指導者・育成者
参加人数	15人
広報手段	主催団体の募集による
共催等	【主催】（一社）神奈川県子ども会連合会 【共催】県立青少年センター

プログラム

・オリエンテーション
・レクリエーション体験
・チーム・アクティビティ決め
・指導体験
・ふりかえり
・全体向けフィードバック

活動の様子

導入の要点は、「まずやってみよう！」

ハンドゲームではもう歓声が

勝ち負けじゃないじゃんけんは楽しい！

ジュニア・リーダーも指導体験をがんばりました

お互いにアドバイスを真剣に書きます

最後は元気に「お疲れさまでした！」

参加者の声（抜粋）	
	いつもは参加する側ですが今回はやる方の研修だったので、とても楽しく学ぶことができました。知らないゲームも知っているゲームもありましたが、知っていてもする人が違うと違って感じ、新たな感じがしてとても良かったです。
	研修って聞くとなかなかカタくるしい感じがして「参加」する一歩がふみ出せない人が多いのかなと思うけれど、参加すると本当に楽しい！！このゲームの流れって大切だなと思うけれどなかなかうまくできない。目的をもって組み立てるとみんなの「楽しい」が引き出せるので、ぜひ自分も楽しみながら事前の準備からやってみたい。
	時間が早く過ぎて行きました。とても楽しく、皆さんの笑顔も多く見られました。地元に戻って伝えて行きます。ジュニア、シニアにも、もちろん育成者の方々にも復習していきます。

評　価	共催団体によるアンケート結果からは高い満足感が伝わり、担当としても伝えたかったことが十二分に伝わる事業となった。楽しい印象で終えられたことが最もよかったが、アクティビティの構成について、いつも以上に専門性の高い学びに繋げられたことも評価したい。
課　題	担い手不足という課題を抱える、子ども会をはじめとする「地域」に対し、どういったアプローチができるか考えさせられる。自治会やPTA、各種保護者会、NPOなど、互いを補い合うことができる存在にも目を向けていきたい。

地域応援事業Ⅶ

玉川大学社会教育士会主催研修

テーマ　**対話で変わるチームビルディング**
講師　青少年センター職員

目　的　市町村または青少年関係団体と協働で青少年支援・指導者育成事業を実施することで主催団体を支援し、地域の青少年活動を積極的に推進するため。

企画の経緯　玉川大学社会教育士会の依頼により、社会教育士対象の研修において、チームビルディングのプログラムを企画した。地域や学校等の青少年支援の現場に、効果的な支援方法の普及を図ることを目的とした。

日　時　12月14日(土)13:00～16:30

会　場　神奈川県立青少年センター研修室1

参加対象　玉川大学社会教育士会、（一社）日本社会教育士会

参加人数　12人

広報手段　主催団体の募集による

共催等　【主催】玉川大学社会教育士会
【共催】神奈川県立青少年センター

プログラム

・アイスブレイキング体験
・コンセンサスゲーム体験
・まとめ「対話で変わるチームビルディング」

活動の様子

職員によるオープニング

アイスブレイキングで仲間づくり

少し難しい課題にも挑戦！

無人島に遭難したらどうする？

ゲームを通して合意形成してみよう！

チームに必要な考え方とは…。

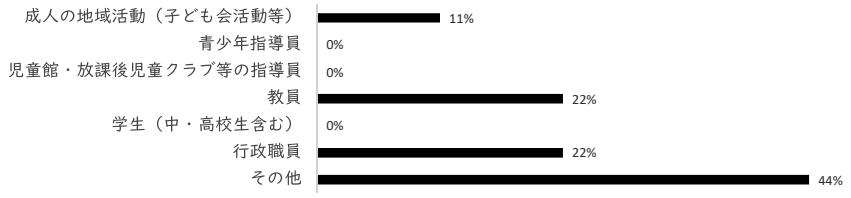
参加者の評価

事業後の満足度

事業への事前の期待度	満足度が高い	満足度が低い
期待度が高い	8人	0人
期待度が低い	1人	0人

（左表は本事業に対する事前の期待度と事業後の満足度をアンケートにより調査した結果である。例えば、表の左上は「事前の期待度と事後の満足度の両方が高い」と回答した参加者の人数を示す。）

参加者の所属割合



（アンケートより作成）

参加者の声（抜粋）

楽しかった。アイスブレイクの役割をあらためて理解できた。身体も気持ちもバランス良く使って、理解が促進されたと思います。ありがとうございました。

明日からでも試してみたいと思うようなアクティビティが多く、とても楽しかったです。また、チームビルディングにおける合意形成において、まずは意見を言いやすい環境を整えること、A対BではなくCをみんなで新しく作っていく過程が必要、大切であることがわかりました。本日は楽しく有意義な学びの時間をありがとうございました！

本日は、参加できて本当に楽しかったですし、勉強になりました。アイスブレイクの数々も今後に生かせそうですし、職場でのチームを省みながら、これから気づいていろいろ振り返る機会となりました。
うちの職場にもぜひ、今後の研修なども紹介したいです！

評価　チームビルディングのプロセスを体験しながら学ぶことができるように研修を構成でき、理論と実践のバランスの取れた研修になったと考えられる。参加者の振り返りからも満足度の高さが示唆される。

課題　今回は参加者同士の関係性が元々適度にある状態であった。そのため短い時間でも高い効果を得られたが、一から関係性を築く場合は、アイスブレイキングの時間を長めに取るなどの工夫が必要であると感じた。

その他の事業（連携・活動支援・受託事業）

神奈川県青少年指導者養成協議会

青少年支援･指導者の育成を県･市町村･青少年関係団体等の連携のもとに推進することを目的として設置した。会員は、県・市町村青少年主管課長及び青少年関係団体の長が担い、指導者育成課が協議会の事務局を担当した。

① 総会

県・市町村・青少年関係団体等の青少年支援・指導者育成事業についての報告と計画について共有し協議した。また、青少年支援･指導者の育成の一助となるような青少年支援に関わる講演会を開いた。

日　程：令和６年５月 28 日（火）14:00～16:30
講　演：「青少年の体験活動の機会拡充を目指して」
講　師：藤原　一成　氏（独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立中央青少年交流の家　所長）

② 常任委員会

県・市町村・青少年関係団体等の青少年支援・指導者育成事業についての報告と計画について、二年任期で任命された常任委員９名において共有し協議した。

日　程：　令和６年 ４月 11 日(木)　14:00～15:30
令和６年 10 月 ３日(木)　14:00～15:30
令和７年 ２月 ６日(木)　14:00～15:30

③ 専門部会（Web ページより抜粋）

今回、神奈川県青少年指導者養成協議会では、県域での特徴的な若者の社会参画の実例を取材し、支援者向けの Q&A などを含めた冊子を作成しました。取材の中で見えてきたことは、若者を応援すると地域全体が盛り上がること。これを活用しない手はありません。若者の居場所づくりやまちづくり、そして支援者の企画づくりや仕掛けづくりのヒントに、本冊子をぜひご活用ください。

④ 青少年支援・指導者育成事業担当者会議

県市区町村及び青少年関係団体の事業の展開における課題や問題等の検討を通じて、新たな方向性を探るとともに、担当者相互の連携や協力を深める機会とすることを目的に青少年支援･指導者育成事業担当者が会した。2 部開催し、第 1 部は各地区で４回、第２部は当センターにて講演とワークショップを企画した。

第１部の日程・会場
令和６年４月 17 日(水) 14:30～16:30　小田原合同庁舎
令和６年４月 24 日(水) 14:30～16:30　厚木シティプラザ
令和６年４月 26 日(金) 14:30～16:30　県立青少年センター
令和６年４月 30 日(火) 14:30～16:30　平塚合同庁舎

第２部の日程・会場
令和６年 11 月 20 日(水)13:30～16:40　県立青少年センター
講　演　：　「効果的な広報の方法とその実践事例について」
講　師　：　十鳥　梓　氏（公益財団法人藤沢市みらい創造財団）
アシスタント：　竹本　吉輝　氏（公益財団法人藤沢市みらい創造財団）

⑤ 青少年支援・指導者活動状況調査、青少年支援・指導者育成事業実施結果及び計画の調査

２月に各機関や団体で把握している青少年支援・指導者の活動状況（活動人数）について調査を行い、併せて青少年支援・指導者育成事業の取り組み状況等について具体的に調査を行った。

子どもフェスティバル（子ども会大会）

神奈川県子ども会連絡協議会と共催で、子ども会大会及び全館イベントを行った。指導者育成課は全体の企画運営を行った。

日　　程	令和 7 年 1 月 19 日（日）10:15～15:45	
共　　催	神奈川県子ども会連絡協議会、地域ぐるみで体験の風をおこそう神奈川事業実行委員会	
場　　所	神奈川県立青少年センター	
来場者数	一般	：2,566 人
	子ども会大会	：　118 人
	ジュニア・リーダー、ユース・リーダー	：　 20 人
	出展団体（ブーススタッフ）	：　160 人
	ボランティア	：　 27 人
	合計	：2,891 人

中学生の主張 in かながわ

「少年の主張全国大会」の県予選として開催され、指導者育成課がその事務局を担当した。

主　　催	神奈川県立青少年センター
	独立行政法人国立青少年教育振興機構
	神奈川県
後　　援	神奈川県教育委員会
	神奈川新聞社
	NHK 横浜放送局
	t v k
	神奈川県青少年育成アドバイザー連絡協議会
応募状況	応募者総数：763 人
	参加学校数：　31 校
日　　程	令和 6 年 9 月 29 日（日）（発表大会）
場　　所	神奈川県立青少年センター　スタジオ HIKARI
応募資格	神奈川県内在住または在学の中学生
	（国籍は問わないが、日本語で発表できること）
内　　容	神奈川県内中学校の生徒による作文発表と表彰
	アトラクション（県立大磯高等学校　SF 研究部）
結　　果	最優秀賞（神奈川県知事賞）
	横浜共立学園中学校　3 年　菅井　美結さん
	優秀賞　6 名　奨励賞　10 名

研修事業事後活用レポート１

平塚市　健康・こども部　青少年課
青少年育成担当
米山　賢汰　さん

関係づくりの一歩目は自分から。

研修事業
リードアップセミナー

青少年行政に携わる新規採用や転出職員等に向けた研修。
職務に必要な知識だけでなく、参加者相互の交流も多い。

活用事業
平塚市　はたちのつどい

今年度、二十歳になる平塚市の青少年対象の事業。
新たな門出を祝うべくイベントの企画運営に携わる。

平塚市の紹介と青少年課の取り組み

平塚市は人口約 25 万人を有し、神奈川県で６番目の規模である。夏の訪れを告げる「湘南ひらつか七夕まつり」が全国的に有名。
青少年課では、はたちのつどいの企画運営、青少年指導員やジュニア・リーダーズクラブへの活動支援、海外派遣や受入事業、学童や子どもの家に関する事業に取り組む。

Interview

米山　賢汰
2024 年４月から勤務。今年度は青少年指導員やジュニア・リーダーズクラブとの連携事業に主に取り組む。その集大成ともいえる「はたちのつどい」では研修成果を遺憾なく発揮し、本番では陣頭指揮を執り、成功へと導いた。

ーこの研修で得られたことと、実際の活動に活かしたことは何ですか？

はたちのつどい実行委員会の事務局として、初対面のメンバー同士のチーム作りを強く意識しました。当研修でレクを通したコミュニケーションの取り方や自己開示による関係作りの方法を学びました。それらを活かして企画会議を進め、実行委員のみんながリラックスして話し合いができるように工夫しました。

ー活動に活かすために工夫した点はありますか？

当日までの限られた時間の中で、実行委員のそれぞれの意思や意見が少しでも反映できるように、チーム作りのタイミングを工夫しました。例えば、職員が自己開示する瞬間はなるべく全員で共有する等、アットホームな雰囲気を意識的につくっていきました。

ー活動に活かした結果いかがでしたか？

実行委員長を含めた全員が自分たちの意見を発言しながら、責任感をもって１年間取り組むことができたと思います。メンバーにも恵まれたこともちろんですが、いいチーム作りができたと感じています。

ーこれから県立青少年センターに期待することや受けてみたい研修のテーマはありますか？

市区町村を指定した、少数地区での合同の研修会（ジュニア・リーダーズクラブ）を実施してくれると嬉しいです。

平塚市
はたちのつどい実行委員会の皆さん

研修事業事後
活用レポート２

神奈川県立足柄ふれあいの村
職員
福光　翔大 さん　**平野　眞太郎** さん

子どもたちの体験を
増やしたい。守りたい。

活用事業①
Mori・キッチン
足柄ふれあいの村が管理する新鮮な食材を
収穫・調理する体験を家族で行う。毎回、定員超過の人気事業。

活用事業②
きんたろうキャンプ
神奈川県の不登校対策自然体験活動事業として実施。個人向けのキャンプ事業で、
小・中学生やその保護者が「次の一歩」を踏み出せるような支援を行う。

研修事業
リードアップセミナー
青少年行政に携わる新規採用や転出職員等に向けた研修。
職務に必要な知識だけでなく、参加者相互の交流も多い。

南足柄市の紹介と足柄ふれあいの村の取り組み
南足柄市は県の西端に位置し、「足柄山の金太郎のふるさと」で知られる。
ふれあいの村は県立施設であり、子どもたちに多くの自然体験活動を提供している。野外炊事やキャンプ事業、宿泊事業、不登校対策事業等、幅広い事業を実践している。

Interview

①この研修で得られたことと、実際の活動に活かしたことは？
②活動に活かすために工夫したことは？
③その結果どうでしたか？
④これから青少年センターに期待することや受けたい研修は？

福光　翔大
2024 年 4 月から勤務。事業運営や利用調整、利用者対応をこなす。取材した事業では自身の出身である鳥取県の郷土料理「どんどろけ飯」等を子どもたちと一緒につくり、笑顔を引き出した。

①野外炊事の手法について学びました。一般的な調理よりも準備や片付けに時間がかるので、活用事業では収穫体験があることも踏まえて、ゆとりのある時間配分にできました。

②炊事時間の確保のため、道具やメニューを簡易化しました。しかし、単純にしすぎると満足感や達成感が得られにくいため、作業の工程数を調整したり、メニューを郷土料理にして新鮮さを持たせたりしました。

③参加者のアンケートから、収穫した野菜を使えたことや、目新しいメニューに満足感を覚えてくれていることが分かりました。余裕のあるスケジュールも功を奏して、満足感の高い事業にすることができたと思います。

④今年度の子どもフェスティバルに参加した際に、他施設の同業者と話す機会があり、情報交換することに新鮮さを感じました。同じような施設で働く方と情報交換できるような場があればうれしいです。

平野　眞太郎
2024 年 4 月から勤務。不登校対策事業や施設利用者への指導等をこなす。前者事業では村内ならびに県内でのキャンプを運営し、稲刈りや登山等の自然体験を子どもたちに積極的に提供している。

①中高生の頃から指導者育成課の事業に参加していたこともあり、そこで学んだこと（アイスブレイキング等）を思い出す契機になりました。勝ち負けをつけないアクティビティは今の業務にも活かせています。

②指導者育成課の職員の柔らかい雰囲気や円になって話すことで安心できる空間をつくることを参考に、個に応じた話し方を意識しています。常に自身をブラッシュアップしています。

③子どもたち同士の目が少しずつ合いはじめたり、だんだん明るくなっていったりする様子が嬉しかったです。また、職員の失敗も隠さずに見せることで、心の距離が近づき、安心感が生まれることもあると気づきました。

④日帰りのキャンプを県内で行うときに候補地をさらに充実させたく、紹介いただけると嬉しいです。また、海で使える体験活動などもあったら面白いかもしれないですね。

研修事業事後活用レポート３

さいたま市立尾間木小学校教諭　／　社会教育士

桝田　亜美　さん

子どもたちの可能性を信じて。

研修事業
地域応援事業

地域からの青少年育成に関する依頼に応じた研修事業を実施。今回は当課事業の「体験学習プログラムセミナー」をベースにした研修を行った。

活用事例
なかよし学級（特別支援学級）自立活動

アイスブレイキングを取り入れたコミュニケーションゲームを行い、言葉やジェスチャーで人とやり取りする楽しさや関わることの楽しさを体験する授業を実践した。

玉川大学社会教育士会（玉社教）について

玉川大学は東京都町田市に位置する私立大学。社会教育士は人づくり、地域づくり等における様々な課題の解決や豊かな地域づくりへの展開を支援する専門の人材。玉社教では、実践者としての力量を培うために、毎月の勉強会やエクスカーション※1、講師による研修会の企画等を行う。

東京都町田市

※1：ある活動について、現地での見学や専門的な解説を踏まえて議論・考察すること。

Interview

桝田　亜美

さいたま市立尾間木小学校に勤務。今年度が教員一年目。なかよし学級（特別支援学級）にて授業を行う。玉川大学社会教育士会及び日本社会教育士会に所属。勉強会に参加したり、研修を企画したりと自己研鑽に努めている。

ーこの研修で得られたことと、実際の活動に活かしたことは何ですか？

研修では、アクティビティの方法だけでなく、その背後にある考え方まで学ぶことができました。アイスブレイキングゲームには、心の通い合った関係をつくる効果があると知り、自立活動におけるコミュニケーションの授業づくりにも有効であると考えました。授業にゲームを取り入れることで、児童が活動に取り組み易くするとともに、「遊び」の中でコミュニケーション能力が育まれる仕掛けにしました。

ー活動に活かすために工夫した点はありますか？

各活動を児童の実態に合わせて行いました。例えば、ラインナップ※2では児童が自分の誕生日を言えない、覚えていないことが想定されたので、誕生日を書いたカードを全員に持たせ、見て分かるようにしました。研修で学んだことを実態に合わせて変化させていくことが大切だと思いました。

ー活動に活かした結果いかがでしたか？

研修を受けっぱなしにせず、いかに実践に落とし込むかが大切であることを実感しました。児童から、「普段はしない質問をし合い、答え合ったのが楽しかった。」、「ゲームの中でコミュニケーションを楽しめた。」という感想があり、私も嬉しかったです。今回の授業は、児童たちには少し難しいかと思っていたのですが、それどころか、もっとできる！という可能性を感じました。

ーこれから県立青少年センターに期待することや受けてみたい研修のテーマはありますか？

学校現場向けの研修があったらいいなと思います。直接現場に来ていただけると嬉しいのですが…(笑)
先生方にとても受けてほしい研修です。

※2：あるお題の順に並ぶアクティビティ。本実践ではサイレントで「誕生日順」に整列。

研修事業事後 活用レポート４

鎌倉市ジュニア・リーダーズクラブ
福嶋　愛莉　さん

みんなが主役の 最高の瞬間を。

研修事業
キャンプ活動セミナー

キャンプを通して野外活動の楽しさや意味を学ぶ。宿泊体験や安全管理の方法を同年代の参加者とともに実践的に学び、様々な考えに触れながら指導力を向上できる。

活用事業
子どもキャンプセミナー「わくわくキャンプ」

キャンプを初めから企画し、１泊２日のキャンプを小学生対象に行う。宿泊プログラムの企画・運営や子どもへの接し方、安全管理について体験的に学ぶことができる。

鎌倉市ジュニア・リーダーズクラブについて
歴史的遺産と豊かな自然環境が魅力な鎌倉市で、地域の子どもたちのリーダーを中学生以上の青少年たち。
市内の子どもたちが楽しんで地域のイベントに参加できるように日々支援している。

Interview

福嶋　愛莉
鎌倉市ジュニア・リーダーズクラブに所属。今年度は、上記のセミナーだけでなく、ユースボランティアセミナーにも積極的に参加し、子どもたちとの関わり方や自身の活動の意義等について考え、その資質能力の向上に努めた。

ーこの研修で得られたことと、実際の活動に活かしたことは何ですか？

アイスブレイキングには子どもたちだけでなく、周りのスタッフも巻き込んで緊張をほぐし、関係性を高める力があることを知りました。この力を意識的にこれからの活動に取り入れたいです。また、物事の話し方や伝え方についても学びました。一緒に活動する職員を見て、大きな声だけでなく、大小を使い分けることや強弱を意識することで、重要なことがより伝わりやすくなると学びました。

ー活動に活かすために工夫した点はありますか？

企画の段階で充実した会議が行えるように、ファシリテーターを決めたり、終了時間を明確にしたりできました。私の所属での課題として、中学生が会議に十分に参加できていないことがあります。事前の役割分担や会議の目的が明瞭な資料の作成等、ここで学んだことを活かしたいです。

ー活動に活かした結果いかがでしたか？

自分の殻を破り、本気で子どもたちと向き合うことの大切さを強く実感しました。特にキャンプファイヤーでは、スタッフが全力で楽しむことで、子どもたちも「自由に楽しんでいいんだ」と感じられるようになり、結果として子どもたちも自分の殻を破るきっかけになるのではないかと思いました。子どもと関わるスタッフ全員が一丸となり、環境や雰囲気をつくることが大切だと思います。

ーこれから県立青少年センターに期待することや受けてみたい研修のテーマはありますか？

各地のジュニア・リーダーを集めた研修会があると嬉しいです。

わくわくキャンプ集合写真

神奈川県
神奈川県立青少年センター

Web限定公開！
若者が地域に参加・参画する、
好事例を取材しました

わかものまんなか社会へ
―地域参画の事例集―

まちと、若者と

家庭、学校に次ぐ子ども・若者の第３の居場所、地域社会。
しかし、若者について考えるとき、実は家庭での困難に見舞われていたり、学校が忙しすぎたり、地域のつながりが希薄化しておりきっかけが掴めなかったりと、まちに若者の姿が見えにくくなっているケースが少なくありません。
一方で、若者にとって、まちでの体験、特に他世代との関わりは、社会をしなやかに生き抜く力を育み、主体的に他者に関わる意欲につながり、さらにはその後のキャリア観にも影響を及ぼす、大切な体験です。このギャップをどう埋めていくか。この視点こそ、「こどもまんなか」時代の神奈川県に、いま求められていることではないでしょうか。

参画のコーディネーターに向けて

今回、神奈川県青少年指導者養成協議会では、子ども・若者の中でも主に「若者」と呼ばれる高校生・大学生年代を中心とした世代に注目し、県域での特徴的な社会参画の事例を取材しました。その中で見えた、まちの様々なプレーヤーの心の動きや活動の工夫、また支援者向けのQ＆Aなどをまとめ、「わかものまんなか社会 ―地域参画の事例集―」として制作しました。

取材の中で見えてきたことは、若者を応援すると地域全体が活性化すること。これを活用しない手はありません。 若者の居場所づくりやまちづくり、そして支援者の企画づくりや仕掛けづくりのヒントに、本冊子をぜひご活用ください。

躍動する若者と地域の支援者、
行政職員の声。
どこにも売っていない、
ありそうでなかった事例集、公開中！

わかものまんなか社会へ

〈企画・発行〉　神奈川県青少年指導者養成協議会
〈事務局・問合せ先〉神奈川県立青少年センター
指導者育成課

045-263-4466
（月曜定休）

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/ikusei/top.html
〒220-0044　神奈川県横浜市西区紅葉ケ丘９－１

掲載事例は充実の７事例、
若者支援に役立つ情報も！

若者が
まんなかにいる、
社会を目指して。

【掲載事例】
① COCORUかまくら／鎌倉青少年会館
② 知る、伝える。ボランティア／横浜市青少年育成センター
③ フレンズ☆SAKAE／Sakae Wakamono Creation2024
④ ふろぷろKananishi／FROM PROJECT
⑤ 神奈川大学共通教養科目「体験型研修」
⑥ 神奈川大学社会教育課程　かながわユースフォーラム実行委員会
⑦ 県立青少年センター人材育成推進事業「ステップアップキャラバン」
／神奈川県子ども会連絡協議会

【その他企画】
序　若者をまんなかにする
神奈川大学人間科学部教授　齊藤 ゆか 氏
若者支援のアレンジレシピ
参画のはしごから
成長を可視化するふりかえり
若者とコーディネーターのためのQ＆A

令和７年度 指導者育成課　研修事業計画

(1) 地域や組織で活躍する支援・指導者の研修等

■地域応援事業

地域が行っている青少年活動の一層の活発化を図るために、市町村や団体と協働で研修を実施します。

■青少年指導員セミナー：５～6 月

主に新任の青少年指導員を対象にレクリエーションの指導法や若者理解、若者とのコミュニケーション能力の向上などをテーマとした体験的な研修を地区別に行います。

■NEAL リーダー養成セミナー：11 月 29 日(土)～30 日(日)、12 月 14 日(日)

県内のフィールドを活用し、安全で楽しい野外活動を展開するために必要な基礎的知識や技術を学びます。受講後は全国体験活動指導者認定委員会から「自然体験活動指導者（NEAL：ニール)」の資格が認定されます。

■子どもの体験活動をすすめる指導者セミナー＜子どもの安心感を高めるコミュニケーション編＞

：８月 19 日(火)

親業(ゴードンメソッド)の考え方を通して､子どもが前向きな気持ちになる関係づくりを学びます。

■体験学習プログラムセミナー

子ども･若者の主体的な学びや人間関係づくりをサポートするために､体験学習の手法を使ったさまざまなプログラムの指導法を学びます。

・子どもの心を動かすアイスブレイキング：7 月 19 日(土)、7 月 23 日(水)、8 月 10 日(日)

子ども・若者の仲間づくりや学級づくり、会議の場での雰囲気づくりなどに活用できるアイスブレイキングの初心者向け研修です。アクティビティを体験しながら学ぶ講座と現場で実践する前のリハーサルができる指導体験型の講座があります。

・対話で変わるチームビルディング：7 月 20 日(日)、7 月 29 日(火)

仲間づくりや話し合いのトレーニングに効果的なアイスブレイキングや協力ゲーム、コミュニケーションゲーム、イニシアティブゲームなどを体験し、地域や学校で活用する方法について考えます。

■子ども施設指導員セミナー：6 月～12 月

子ども施設(児童館、放課後児童クラブ等)の指導員を対象に、子ども･若者が自ら成長するための環境づくりや支援に必要な知識・技術の向上を図ります。

■リードアップセミナー：5 月 7 日(水)、5 月 21 日(水)～22 日(木)、5 月 30 日（金)

新規に青少年担当になった行政職員等を対象に、プログラム体験や施設見学、ワークショップ等を通して、青少年行政への理解を深め、ネットワークづくりをすすめます。

(2) 若者・リーダー育成の研修等

■ユースボランティアセミナー：6月7日(土)～8日(日)、6月22日(日)

中学生以上の若者(30歳未満)を対象に、仲間づくりのゲームや野外炊事、火おこし、ファイヤー等のキャンプの知識や技術を習得し、地域や学校等で活躍できるボランティアの育成を図ります。

■イベントボランティアセミナー：10月12日(日)、11月24日(祝月)、12月21日(日)、1月25日(日)、2月7日(土)、2月8日（月）

高校生以上のジュニア・リーダーを対象に、2月実施の「子どもフェスティバル(神奈川県子ども会大会)」の企画と運営を通して、組織運営や企画能力を身につけ、子どもとの接し方を学びます。

■キャンプ活動セミナー：8月23日(土)、8月29日(金)～30日(土)

大学生年代の若者(30歳未満)を対象に、キャンプを通して、野外活動の楽しさや意味を学び、今後の活動につなげていきます。

■子どもキャンププロジェクト：11月8日(土)、12月13日(土)、1月18日(日)、2月15日(日)、2月27日(金)～3月1日(日)、3月8日(日)

大学生年代の若者(30歳未満)を対象に、子どもキャンプの企画と運営を通して、地域や社会との関わり方や子どもとの接し方などについて学びます。

■コミュニケーションスキルアップセミナー：8月21日(木)

中学生以上の若者(30歳未満)を対象に、即興演劇の手法を使って、コミュニケーション能力や表現力の向上を図ります。

■ステップアップキャラバン

指導者育成課の研修受講生を対象に市町村や協力団体が実施する各種のイベントに講師として派遣し、指導の機会を提供します。（年間を通して随時実施）

(3) その他の事業（連携・活動支援・受託事業）

■支援・指導の現場で活かせるレシピの作成

■元気な子ども・若者の地域活動調査事業

■神奈川県青少年指導者養成協議会

■子ども会大会（子どもフェスティバル）：2月8日(日)

■青少年問題対策推進事業

■体験の風をおこそう

■講師派遣

■中学生の主張 in かながわ：6～9月(応募期間)、9月28日(日)（発表大会）

指導者育成課
ホームページへのリンク

神奈川県青少年指導者養成協議会
専門部会 リンク

【3年分の成果物】

令和4年度専門部会
　自然体験活動　虎の巻

令和5年度専門部会
　子どもと楽しむレシピミュージアム

令和6年度専門部会
　わかものまんなか社会へ－地域参画の事例集－

令和６年度
神奈川県立青少年センター指導者育成課　事業実施報告書

作　成：　栗田　強太郎　　狩野　陽士
長南　悠太　　青木　祐樹
坂井　宏彰　　山西　康介
壁谷　亜美

発　行：　令和７年３月末日

編　集：　神奈川県立青少年センター 指導者育成課
〒220-0044　横浜市西区紅葉ケ丘9-1
TEL 045-263-4466